

経済学(第5週)

前回のキーワード(1-2-2~1-2-3)

- ・ ISバランス, 可処分所得
- ・ SNA
- ・ GrossとNet, 固定資本減耗
- ・ DomesticとNational, 海外(要素)所得
- ・ 市場価格表示と要素費用表示

1

1-2-4 フローとストック

ある時点(t)から、次の時点(t+1)までの間を期間(t期)という

ある期間の経済変量はフロー変数とよばれる。
例) GDP, 消費, 投資, 貯蓄など

ある時点の経済変量はストック変数とよばれる。
例) 実物資産(資本ストック), 金融資産, 通貨流通量など

4

1-2-3 GDPとNI(国民所得)の関係

- (i) $NI = \text{要素費用表示のNNP}$
 $= \text{市場価格表示NNP} - (\text{間接税} - \text{補助金})$
 - (ii) $GDP - \text{固定資本減耗} = NDP$
 - (iii) $NNDP + \text{海外からの要素所得純受取}$
 $= (\text{市場価格表示の})NNP$
- ・(i)(ii)(iii)より,
 $NI = GDP - \text{固定資本減耗}$
 $+ \text{海外要素所得純受取} - (\text{間接税} - \text{補助金})$

2

1-2-4 投資と資本ストック

企業の設備投資は、生産能力を増やすために行われる。

設備投資の実施(フローの発生)
資本ストック(固定資本)の増加

短期のマクロ経済分析では、投資の発生は支出(GDE)として扱うが、期末時点まで供給能力は増加しないと仮定する。

5

1-2-3 GDPの範囲

市場を経由せずに発生した財・サービスの価値

特殊な方法でGDPに算定されるもの

- ・ 費用ベースによる間接推計
…公的サービスの価値
- ・ 帰属価格による算定(テキストp.16-17)
…持ち家の帰属家賃, 農家の自家消費など

技術的な制約等のため算定されない価値
家事サービス, キャピタル・ゲイン(資本利得)
外部効果, 非合法的な経済活動(地下経済) など

3

1-3 国際収支表

国際収支(Balance of Payments:BOP)

一国の居住者が非居住者に対して行う経済取引を複式簿記の形で記録したもの

経常収支勘定と資本収支勘定から構成

1966年に採用、1996年に改訂

6

1-3 経常収支 (Current Account)

貿易・サービス収支
= 貿易収支 + サービス収支

所得収支
… 賃金・利子所得など

経常移転収支
… 無償資金援助, 国際機関への拠出

7

1-4-1 名目 (nominal) と実質 (real)

例えば, GDPなどの集計された市場評価額 (**名目値**: nominal value) の変化には, **物価変動による「みせかけの変化」**が混在する可能性がある

その場合には, 物価の変動分を除いた市場評価額 (**実質値**: real value) の変化をみる方が有効である

いくつかの例外的なマクロ経済変数を除けば,
名目変数 = 物価 × 実質変数
と理解すればよい

10

1-3 資本収支 (Capital Account)

投資収支
= 直接投資 (FDI) + 証券投資 + その他

その他資本収支
(資本移転や著作権, 特許権の取得処分など)

8

(応用) 物価指数の算定法

$$GDP_{(2012)} = \{ p^k_{(2012)} \times Q^k_{(2012)} \}$$

(p^k ; 財の価格, Q^k ; 財の数量)

基準年 (たとえば, 2000年) の物価を100としたとき, 2012年 (**比較年**) の物価がいくらであることを示すのが **物価指数**

数量 (Q) の割合を, 基準年 (A) が比較年 (B) で統一する2つの方法がある。 (A) を **ラスパイルズ指数**, (B) を **パーシェ指数** とよぶ。

11

1-3 国際収支表の見方

貸方 (受取)	BOP	借方 (支払)
輸出	輸入	経常収支
金融資産の減少	金融資産の増加 (- 表記)	資本収支
外貨準備の増加		

所得収支 = 経常移転収支 = 0としている

9

1-4-1 物価指数の例

消費者物価指数 (CPI)

企業物価指数 (CGPI)

GDPデフレーター

12